

授業科目	在宅看護実習	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	上田 泉 (保健医療学研究棟 E104 号) e-mail : iueda@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岡田尚美、青木亜砂子、深川周平、村川奨		
概要	在宅における看護活動をとおして在宅看護の特性を理解するとともに、在宅で暮らす療養者や障がい者およびその家族の生活と健康を理解し、在宅における看護の基礎知識、方法、技術を学習する。訪問看護ステーションでは在宅療養者と家族を受け持ち、看護過程の展開の実際を学ぶ。地域包括支援センター、介護予防センターなどの在宅ケアサービスや連携の実際をとおして、ケアを提供している機関のシステムと活動の特性を理解し、関係機関や関係職種とのチームアプローチの重要性と意義について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活する個人、家族の健康と生活に即した援助の実際を体験することができる。 2. 訪問看護ステーションの活動をとおして、提供している機関のシステムと活動の特性を述べるができる。 3. 健康と生活を支える保健、医療、福祉の分野の人々との協働の実際を理解し、チームアプローチの意義について述べるができる。 4. 学生として責任ある行動をとり主体的に学習をするとともに、在宅で生活する人々や援助に関わる人々の価値観や生き方を尊重することができる。 		
評価	実習状況(90%)、記録物、レポート等(10%)を総合し、評価表に基づき目標到達度を評価する。 評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず事前に連絡する。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションにおいては1名の利用者について看護過程を展開する。訪問は同一事例に2回訪問し、2回目には指導者の援助活動の一部を指導のもとに実施する。またその他に数例の見学訪問を行う。 2. 2人～3人でグループに分かれ、実習する。 3. 日々のミニカンファレンスおよび実習の総合カンファレンスを行う。 4. 看護過程記録、見学訪問記録、実習全体の体験は体験状況記録に記録し実習終了後レポートと共に提出する。 5. 実習終了後、グループに分かれセミナーを行う。
実習期間	2月中旬の2週間
実習場所	札幌市内及び近郊の訪問看護ステーション13カ所
実習時間	基本的に9時～17時とするが、実習施設の勤務開始、終了時間にあわせ変更することがある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅において療養者および家族とのコミュニケーションをとおして対象者を尊重した関係について学習する。 2. 一連の看護過程をとおして、在宅の療養者及び家族の生活と健康の状況について学習する。 3. 在宅において援助の実施や指導者の援助から継続看護の実際と在宅における看護の特性を学習する。 4. 見学訪問をとおして、年齢、健康レベルや傷病、生活状況等多様な対象者とその看護活動の実際を学習する。 5. 訪問事例をとおして、関係職種や機関との協働の実際やチームアプローチの意義について学習する。 6. 訪問事例や地域で展開されている在宅ケアサービスと関係職種の協働の実際を学習する。 7. 訪問や相談活動の実際から対象者の援助にかかわる倫理的態度を考えた行動がとれるようにする。 <p>なお、実習方法・実習内容についての詳細は開講時に説明する。</p>